



TITLE:

歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因 素

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素. 經濟論叢 1916, 2(3): 457-461

ISSUE DATE:

1916-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/126969>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三號

第二卷

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二卷)

講師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係(戰後經濟問題)

法學博士 神戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講師 本庄榮治郎

歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的要素

講師 米田庄太郎

本文ハばれと氏が昨年 Scientia ニ於テ公ニサレタル論文*ノ大要ヲ紹介スルモノ。同氏ハ瑞西るーさんす大學ノ教授ニシテれまん、わろらす氏ノ後ヲ繼イテ經濟學ノ講座ヲ擔任シ今日るーさんぬ派（數理經濟學派）ノ泰斗ト認メラレテ居ル人。其經濟學上ノ著作ハ數理經濟學上ノ模範的著作ト看做サレテ居ルノデアルガ、然ルニ同氏ハ實ニ數學ヲ經濟學ニ應用スルヲ以テ満足セズ、更ニ社會學ニモ應用シ、數理社會學ナルモノヲ新ニ建設セント試ミ、而シテ此ノ試ミニ於テれれテ大學のういにあゝすき教授ト並べ稱セラレテ居ル。但シばれと氏ノ數理社會學ハ尙ホ斷片的ナ試ミニ過キナイデマダ完成シテ居ラナイ。ソシテ本論文ハ二十一頁餘ノ可也ノ長論文ニシテ七節ニ分タレテ居ルカ、余ハ大要紹介ノ便宜上三節ニ分ツコトトスル。

一 ぼりびおハ第一ぶにか戰爭ヲ論ズニ當テ、ろゝなモかるたぎねモ共ニ互ニ他ヲ支配セントスル強キ情熱ニ燃サレテ居ツタコトヲ述ベテ居ルガ、是レ該戰爭ノ最も深大ナル原因ヲ表示スルト同時ニ實ニ戰爭一般ノ最も深大ナル原

* Vilfred Pareto, La guerra e i suoi fattori Sociologici, (Scientia, 1-111, 1915.)

因ヲ暗示スルモノト思フ。之レニ比スレバ其他ノ諸原因ハ何レモ間接ニ働ク次等のノモノデア。尤モ其等次等の諸原因中ニテモ、民族ノ差異政治の制度ノ差異、宗教ノ差異及ビ經濟的利害等ハ其勢力甚大ニシテ時ニハ直接ニ戰爭ヲ惹起スルモノノ如クニ見ユル。而モヨク吟味スルト其等ノ諸原因ハツマリ先ヅ國民間ニ存在スル競爭敵對ノ感情ヲ煽リ立テテ開戰ニ至ラシメタノデヤハリ間接ニ働ケルモノデアルコトガ發見サレル。

今日ノ歐洲戰爭ニ付テモ、之ヲ經濟的利害ノ衝突又ハ民族衝突ノ直接ノ結果ト解スル人々ハ、何レモ第二次の原因ヲ以テ第一次の原因ト見ル謬見ニ陥レルモノデア。其ノ根本原因ハ今日ノ歐洲ノ狀態ニ於テ各々自己ノ勢力ヲ擴張シ、相互ニ他ヲ支配セントスル幾ツカノ國民ガ存在スルト云フコトニアル。何レノ時代ニ於テモカ、ル國民ノ存在スル以上ハ、早晚何カノ口實ノ下ニ戰爭ノ勃發スルコトハ到底避ケラレナイノデア。而シテ今日ノ歐洲ニ於テ斯カル國

民ト認ム可キモノハ獨逸國民、露西亞國民及ビ英國國民ノ三者デア。併シ其ノ中デ他ヲ壓シテ自己ノ勢力、支配ヲ擴張セントスル情熱ノ最モ強キモノハ獨逸國民ニシテ、露西亞國民ハ之ニ次ギ、而シテ英國國民ニ於テハ寧ロ他ノ二者ノ進撃ニ抵抗セントスルモノデア。弱イ無氣力ナ國民同士ハ平和ニ生活スルデアラウ。併シ強イ活動的ナ國民間ニ平和的協働ヲ望ムハ困難デア。今日ノ英獨露間ノ戰爭ハ右ノ根本的原因ニヨリテ到底避ケラレナイノデア。

二 今日ノ歐洲戰爭ニ於テ、交戰國民間ノ政治の制度ノ差異及ビ一種ノ宗教の信仰ノ差異ガ重大ナル役目ヲ演ジテ居ルコトハ疑ハレナイ。而モ其等ハ只次等の原因デアツテ根本的原因デハナイノデア。其理ヲ少シク辨ジテ置ク。今獨逸及ビ澳太利匈牙利ノ政治的傾向ノ所謂軍國主義のナルコトハ敵モ味方モ之ヲ認メテ居ル。又佛蘭西及ビ英國ノ政治的傾向ガ所謂民主主義的或ハ民政主義的デアルコトモ敵モ味方モ認メテ居ル。而シテ今日ノ戰爭ニ於テ此等ノ國民ハ

民政主義的或ハ民主主義的の制度即チ所謂自由制度ヲ防衛スル爲メニ獨逸ノ軍國主義ニ對シテ奮闘シツ、アルモノト信ジ、又其同情者モ此ノ如クニ信ジテ居ル。但シ今日ノ戰爭ニ於テ、君主專制主義ヲ以テ有名ト露西亞政府ガ民政主義的諸政府ト利害ノ共同ヲ感ジテ之レト步調ヲ一ニシテ居ルト云フコトハ少シク奇妙ニ見ユルガ、併シ詳シク研究スルト、露西亞モ其實一種ノ官僚主義ニ支配サレテ居ルノデ、而シテ其ノ官僚主義ハ獨逸ノ軍人貴族の官僚主義ヨリハ寧ロ英佛ノ民政主義的官僚主義ニ類似スル處大ナルコトガ發見サレル。露西亞ニ於テハ貴族ハ君主ノ勢力ニ依テ存立シテ居ルガ、獨逸ニ於テハ君主ハ貴族ヨリ其勢力ヲ得テ居ルノデアル。此差異ハ根本的ニ重要ナル點デアル。サレバ今日ノ戰爭ヲ政治的の制度ノ差異カラ考察スル場合ニハ、露西亞政府カ英佛政府ト行動ヲ一ニシテ居ルコトハ別ニ不思議ナ現象デハナイト思フ。

上ニ述ベシ如ク今日ノ戰爭ニ於テ英佛ノ國民ハ所謂民主制度或ハ自由制度ヲ防衛シ保護スル

爲メニ獨逸ノ軍國主義ニ對シテ奮闘シテ居ルト自カラモ信ジ、又其同情者モ信ジテ居ルノデアルガ、併シ詳シク調ラベテ見ルト、其ノ所謂民主制度トカ自由制度トカ稱セラル、モノハ、實ハ民主的の富豪制度ニ外ナラナイ、更ニ其ハ煽動家の富豪制度 Plutocracy demagogica ニ變化シツ、アルコトガ發見サレル。社會主義者モまゝゝるくす説ニ拘ハレテ此ノ真相ヲヨク理解スルコトガ出來ズ、單ニ之ヲ資本主義制度ト觀念シテ居ルノハ抑々彼等カ現代政治ノ眞義ヲ十分ニ理解シ得ナイ所以デアル。而シテ此ノ民政的の富豪主義或ハ煽動家の富豪主義ノ徒輩カ只彼等ノ目前ノ利益ニ目ガ眩ミ、自己ノ將來ノ利益ヲ洞察スル明ヲ缺イテ居ルコトガ今日ノ戰爭ノ起レル一原因デアルト思ハレルノデアル。サレバ今日ノ戰爭ノ一原因ガ政治的の事情ニ在ルトシテモ、其ハ決シテ普通ニ信ゼラレテ居ル如ク軍國主義ト民主主義或ハ自由主義トノ衝突デハナイ。勿論其レガ根本的の原因デハナイノデアル。

次ニ交戰國民間ニ於ケル一種ノ宗教的信仰ノ

差異ガ今日ノ戦争ノ一原因トナツテ居ルコトモ亦疑ハレナイ。獨逸ノ所謂「Kultur信仰、くるつあ神」ノ信仰ト英佛ノ「聖進歩」^{セント・プログレッズ}「聖民主主義」^{セント・デモクラシー}「神聖ナル普通選舉」^{ザ・ユニバーサル・エレクトラール}ノ信仰トノ差異ガ今日ノ戦争ノ一原因デアルト看做スコトハ出來ル。併シ其ノ實ヲ深ク探ツテ見ルト、此等ノ信仰ノ差異ガ今日ノ戦争ヲ根本的ニ惹起シタノデハナク、此等ノ信仰ノ差異ハツマリ先ニ述ベシ根本的原因ノ働ヲ促進シ、又既ニ戦争ノ起ツタ後ニ交戦國民ノ感情ヲ煽リ立ツル用ヲナシテ居ルモノデアアルコトガ發見サレル。サレバ近來續々發行サレタ無數ノ戦争論ノ著作論文ニ於テ一般ニ見ル處ノ見解即チ民族的文化ノ差異トカ其他種々ナル精神の倫理的勢力ノ差異ヲ以テ今日ノ戦争ノ根本原因ト見ル見解ハ、何レモ謬見ニアラズハ皮想ナ見解デアツテ、其次等の原因ヲ説明スルニハ貢獻スル處アルガ、決シテ其根本原因ヲ説明シ得ルモノデハナイト思フ。

三 上ニ述ベシ種々ナル形態ノ奥底ニ働ク深大ナル諸勢力、根本原因ノ探求ハ、吾人が多少

ノ蓋然性ヲ以テ實驗科學的ニ將來ヲ豫想スル爲ニ甚ダ有益デアル。而シテ其等ノ深大ナル根本原因ノ持續スル以上ハ其ノ當然ナル結果ハ假令種々ナル事情ニヨリテ其發現ノ形態ヲ異ニスルモ、到底避ケ得ラルルモノデナイ。平和主義者ヤ社會主義者ナゾハ此理ヲヨク了解セズ、種々ナル詭辨ヲ弄シテ今日ノ文明國民間ニハ到底戦争ノ不可能ナルヲ説イテ居ツタガ、論ヨリ證據、吾人ハ今ヤ目前ニ古今未曾有ノ大戦争ノ行ハルルヲ見テ居ルノデアル。

目下ノ大戦亂ノ終結ニ付テニケノ假説ガ立テラレ得ル。一ハ相方引分ニ終リ戦後ニ於テモ交戦國民ハ各々同等ナ或ハ殆ンド同等ナ勢力ヲ保有スル元ノ状態ニ止マルデアラウト云フ假説デアアル併シシカカル終結ヲ告グル場合ニハ其ノ平和ハ只一時ノ休戦状態ニ過ギナイコトハ明ラカデアル。二ハ交戦國民ノ一方ノ絕對的勝利ヲ以テ終結スルデアラウト云フ假説デアル。而シテ若シ其ノ絕對的勝利ノ月桂冠ヲ戴クモノガ三國協商側デアルトスルモ、吾人ハカノいゝな戦争

後なほれおん第一世が普魯西ニ對シテ爲シ能ヒ
シヨリモ以上ニ或ハヨリヨク獨逸ノ軍國の勢力
ヲ破壞シ其ノ改造復活ヲ妨止シ得ルトハ思ハヌ
之レニ反シテ戰敗ノ苦痛ト屈辱ハ獨逸國民ノ愛
國心ヲシテ以前ト同様ニ大ニ燃エ上ラシムルデ
アラウト推察サレル。然ラバ中欧一大帝國ガ勝
利ヲ得ルトスレバドウカト云フニ、吾人ハヤハ
リ彼等ハ如何ニシテカノ廣大ナルふりたにあ帝
國ヲ破壞シ、熱烈ナル復讐心ヲ以テ植民地全體
ガ母國ト強固ナル團結ヲ作り、或ハ更ニ北米合
衆國ノ大勢力ニ助ケラレテ復讐戰ヲ計畫スルヲ
妨止シ得ルカラ理解スルコトガ出來ナイ。又獨
逸ニ帝國ガ如何ニシテ、廣大無邊ナル領土ヲ有
スル露西亞帝國ニ眞ニ致死の大打撃ヲ與ヘ、露
西亞國民ヲシテ再起ノ希望ヲ全然放棄セシムル
カラ理解スルコトハ出來ナイ。更ニ考フ可キコ
トハ普魯西ノ軍國主義及ビ軍國の勢力ハ戰勝其
物ニヨツテ大ニ衰弱スルカモ知レナイト云フコ
トデアル。波斯戰爭後あてねノあれおぼはじニ於
テ、又地中海沿岸ヲ全ク征服シタル後ろゝまノ

せなどニ於テ現ハレシト同様ナ狀態ガ戰勝後ノ
獨逸ニ現ハレナイトハ云ハレヌ。富豪政治及ビ
民主主義ハ獨逸ノ敵國ニ特有ノモノデナイ。此
等ハ獨逸ニ於テモ亦存在シテ居ル。只其ノ發達
ガ後レテ居ルバカリデアル。今日ノ獨逸ニ於テ
ハ富豪政治ヤ民主主義ハ其勢力アマリ大ナラヌ
ガ、併シ明日ハ獨逸ヲ支配スルニ至ルカモ知レ
ナイ而シテ今日ノ獨逸ト第二十世紀ノ終リ頃ノ
獨逸トノ間ニハうえりんさんノ英國トろいど、
じよーじノ英國トノ間ニ於ケルト同様ナ差異ガ
生ズルカモ知レナイ。

今日ノ文明國ニ於テハ富豪政治及ビ民主主義
ノ進化ハ到底停止シナイデアラウト思ハレル。
而シテ其ハ只夫レ自身ノ爛熟ノ結果トシテノミ
又夫レ自身ノ本質ヨリ起ル勢力及ビ障害ノ作用
ニヨリテノミ終末ヲ告ゲルモノデアラウト考ヘ
ラレル。併シ此問題ニ付テハ最早茲ニ論述スル
暇ハナイカラ他日ニ讓ル。